

医療最前線

▶115

医療の高度化が進む中で質の高い医療を提供するには、医師だけでなく看護師や理学療法士、栄養士ら、さまざまなプロフェッショナルが協力する「チーム医療」が重要になる。西能病院をはじめとする五省会では、職員間の連携強化に力を入れる。「人の和をつくるには、一緒に楽しい時間を過ごすことが大事です」。市村和徳副院長は持論を展開する。

「部活動」を実施

和をつくる手段の一つとして、職員の「部活動」を実施している。職員は野球やテニス、マラソンなど、好きな部に所属し、協力し合ってプレ

五省会西能病院④ 副院長 市村 和徳さん(58)

スタッフの和を強め

「する中で仕事に通じるチームワークを育む。部活はチームワークだけでなく、職員がスポーツについて学ぶ機会になっている。西能病院は整形外科がメインであるため、スポーツ中のけがで来院する患者も多い。「部

活を通じて得た知識を活用して治療の際、患者さんに的確なアドバイスを出すことができま

患者も巻き込んでチームワークは職員だけにとどまらない。患者が医療チ

なる」として、病棟では毎週火曜日に病棟の休憩スペースを使ってコーヒーサービスを行っている。病室にこもりがち患者を外に連れ出し、スタッフと交流を深めてもらうという企画だ。見舞いの家族にも開放し、骨粗しょう症の予防などに対する病院の取り組みを知らせる機会にもな



ームに信頼を置き、自ら治そうという意思がなければ、優れたサービスを用意しても意味がない。「患者さんが加わることで、本当の意味でのチーム医療に

職員のバンドでベースを演奏する市村さん(左)

富山市秋ヶ島のみどり苑(五省会提供)

コーヒーマシーンをきっかけに、クリスマス会など季節のイベントも開くようになった。イベントでは職員でつくるバンドの演奏が披露され、好評を得ている。バンドの活躍の場は五省会のほかの施設にも広がった。

市村さんはエレキベースを担当する。一見地味だがバンドには欠かせない。「医療も音楽もメンバーの連携が大切です」。職員が能力を発揮できる職場の「ベース」づくりも副院長の大事な職責と考える。

いちむら・かずのり 岐阜県恵那市出身。富山医業大医学部を卒業後、富大附属病院や富山協立病院などを経て、2004年から西能病院、2009年から現職。